

# 世界 World

## 世界貿易は伸び悩み

ジェトロ海外調査部国際経済課 石橋 裕貴

世界貿易の伸びが近年鈍化している。2014年には、資源価格の下落が主な要因となって世界貿易は押し下げられた。長期的に見ると、世界経済の成長鈍化に伴う需要の低迷と、現地調達・生産の拡大を背景にした中間財や資本財の取引鈍化が世界貿易を押し下げている要因として考えられる。当面この傾向は続くと思われることから、今後とも世界貿易は低調な伸びで推移すると予想される。

### 資源価格の下落

2014年の世界貿易（商品貿易、名目輸出ベース）は、前年比0.8%増の18兆7,461億ドル（ジェトロ推計）と低調な伸びにとどまった。その一要因として輸出価格の下落が挙げられる。輸出価格は、資源価格の下落などにより1.7%減となった。主要品目の価格を見ると、原油が前年比7.5%下落した他、天然ガス、鉄鉱石、石炭もそれぞれ6.5%、49.2%、17.1%と大幅に低下した<sup>注1</sup>。これらエネルギー・鉱石価格の下落は、特に14年後半以降顕著になった。こうした資源価格全般の下落を反映して、原油の輸出額は前年比6.8%減の1兆3,729億ドル、貴金属は31.4%減の2,259億ドル、鉄鉱石は16.0%減の1,193億ドル、石炭は13.1%減の1,004億ドルといずれも不振だった。

主要資源価格の下落傾向は15年に入っても続き、世界貿易を押し下げる要因になっている（表）。15年

第1四半期のデータ取得が可能な主要22カ国・地域<sup>注2</sup>の輸出額は、全体で前年同期比6.8%減の2兆6,943億ドル（輸入は12.2%減の2兆6,691億ドル）となった。原油（輸入ベース）は48.7%減、鉄鉱石（同）が41.5%減、石炭（同）が20.5%減など、いずれも前年同期を大きく下回っている。

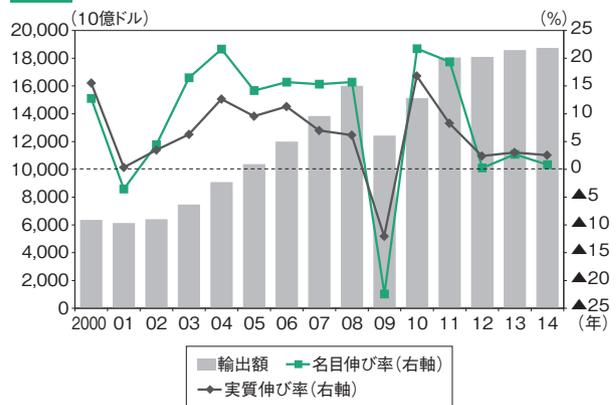
### 需要停滞と中間財・資本財取引の鈍化

中長期的観点から世界貿易を見ると、特に12年以降、その伸びが鈍化している（図1）。物価の影響を除いた実質ベースで見ても同様である。

その要因は大きく二つ考えられる。一つは世界経済の成長鈍化に伴う需要の停滞である。世界経済の成長率は、12年以降3%台にとどまっている。成長のけん引役だった新興・途上国の成長率もまた、減速傾向を示す（12年：5.2%、13年：5.0%、14年：4.6%）。

需要面から貿易を分析するため、輸入統計（世界53カ国・地域計）を見ると、12年以降、主要国・地域で輸入の伸びが停滞していることが分かる（図2）。中国

図1 世界貿易の推移（輸出ベース）



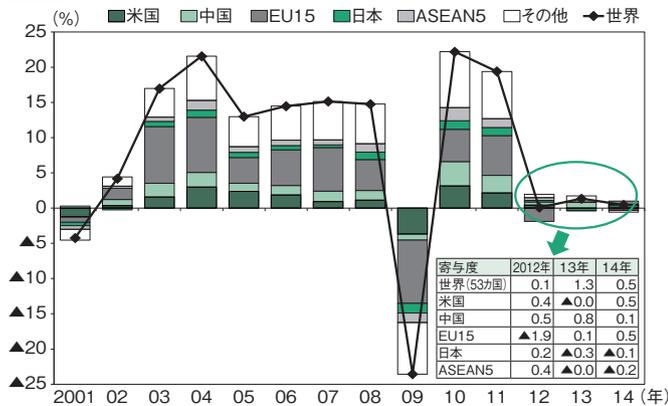
注：2013年と2014年の貿易額、2014年の名目伸び率はジェトロ推計  
 資料：IMF [IFS, May 2015] [WEO, April 2015] [WEO, July 2015]、各国・地域貿易統計を基に作成

表 資源価格の伸び率の推移（前年同期比） (単位：%)

	2014年				2015年	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
原油	▲ 1.3	▲ 7.1	▲ 6.5	▲ 28.7	▲ 50.1	▲ 43.2
天然ガス	▲ 5.0	▲ 7.0	▲ 8.3	▲ 5.7	▲ 13.4	▲ 31.0
鉄鉱石	▲ 18.8	▲ 18.2	▲ 32.0	▲ 45.1	▲ 48.2	▲ 43.6
石炭	▲ 17.0	▲ 15.6	▲ 12.2	▲ 23.3	▲ 20.6	▲ 18.9

資料：IMF [IFS, August 2015] を基に作成

図2 世界の輸入額の伸びに対する国・地域別増減寄与度



注：輸入額が公表されている53カ国・地域のデータに基づく  
資料：各国・地域の貿易統計を基に作成

は2000年以降、ほぼ一貫して2桁の輸入伸び率を記録していたが、経済成長率が7%台に鈍化した12年以降、12年4.4%増、13年は7.3%増、14年0.7%増と、1桁台が続く。15年に入ってから、鉱物性燃料や鉄鉱石などの落ち込みが影響し、第1四半期が前年同期比21.4%減、第2四半期が16.9%減となった。数量ベースで見た鉱物性燃料の輸入は、需要の停滞により14年第3四半期以降、前年同期を下回っている（14年第3四半期：8.9%減、第4四半期：5.4%減、15年第1四半期：14.7%減、第2四半期：8.5%減）。

ただ、EUと米国の輸入は14年以降、景気を持ち直しもあって回復傾向にある。世界の輸入の伸びに対する両者の寄与度は、中国のそれを上回っている。14年におけるEU15の輸入は、自動車や医薬品などがけん引し、前年比1.5%増の5兆2,136億ドルで、前年の0.2%増を上回った。米国の輸入は、医薬品や通信機器などが寄与し、3.5%増の2兆3,477億ドルと、これも前年の0.3%減から回復した。このように14年におけるEUと米国の輸入は持ち直しの兆しがあるものの、長期のトレンドで見れば、EUや米国も含めて総じて輸入の伸びは鈍いといえる。

世界貿易を鈍化させているもう一つの要因は、企業の現地調達・生産の拡大を背景にした中間財・資本財取引の鈍化である。財別に見た近年の貿易動向の特徴は、消費財の取引の伸び（14年は5.3%増）に比べて、中間財と資本財の伸びが、それぞれ0.3%増、2.0%増と伸び悩んでいることだ。その背景には、企業による進出先国での現地調達・生産の拡大により、中間財や資本財の輸入が以前よりもペースを落とした可能性が考えられる。主要輸入国である中国の財別の輸入動向

を見ても、消費財の伸び（同15.0%増）に比べて、素材（同2.1%減）、加工品（同4.9%増）、部品（同0.5%減）、資本財（同1.3%増）の輸入の伸びは鈍い。ジェトロの「在アジア・オセアニア日系企業活動実態調査（2014年度）」によると、在中国日系企業の現地調達率は、07年の51.5%から14年には66.2%へと上昇しており、こうした傾向を裏付けている。

### 今後の見通しは

今後の世界貿易の見通しはどうか。成長鈍化に伴う需要の停滞や中間財・資本財の取引の鈍化が続くとみられることから、低調な伸びが続く可能性が高い。

世界経済の成長予測については、IMFが15年3.3%、16年3.8%（15年7月の見通し）、世界銀行が15年2.8%、16年3.3%（15年6月の見通し）、経済協力開発機構（OECD）が15年3.0%、16年3.6%（15年9月見通し）と、各国際機関いずれも15年と16年は2%台後半から3%台の緩やかな成長になるとしている。こうした見通しは、世界貿易に関する上記の見方を補強するものだ。

また、中間財と資本財の取引は、15年に入っても鈍いままだ。前述の主要22カ国・地域の第1四半期における中間財輸出の伸びは6.3%減、資本財は0.8%減と落ち込んでいる。両財の取引停滞が、現地調達・生産の拡大という構造的要因に起因するものならば、今後も低調な伸びが続く可能性が強い。海外日系企業による現地調達率を、国・地域別に比較すると、中国（66.2%）や米国（56.5%）、タイ（54.8%）などで特に高くなっている。前出のジェトロ調査によれば、「進出先での現地調達率を引き上げる」と回答した企業の割合が、中国で84.4%、タイでは81.7%と高かった。日系企業の現地調達率が低いインド（48.2%）においても、今後、「進出先での現地調達を引き上げる」と回答した割合は87.0%に上った。こうした調査結果を見ても、グローバル企業による現地調達は今後も加速することが予想され、結果として世界貿易の伸びにマイナスの影響を与える可能性が高いだろう。

注1：原油はドバイ・ブレント・WTIの平均価格。天然ガスは、ロシア市場価格。鉄鉱石は中国市場価格。石炭はオーストラリア市場価格。  
注2：日本、ドイツ、中国、米国、フランス、英国、韓国、カナダ、香港、シンガポール、ロシア、台湾、オーストラリア、インド、スイス、ブラジル、マレーシア、タイ、フィリピン、メキシコ、アルゼンチン、南アフリカ共和国。